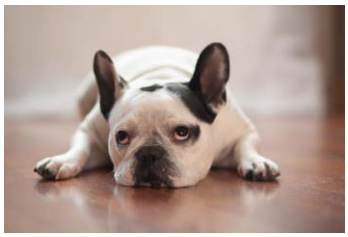
届け 世界の果てまでも

令和５年２月７日　Ｎｏ．６４　文責　校長　飯久保一男

聞き方 …余計な一言は必要ありません



授業を始めて，やることの説明を始めると，

「え～，面倒くさい」　　「やらなきゃいけないのですか」

といった言葉が聞こえてくることがあります。そういった声は無視することが効果的だと思いますが，ときには指導しなければならない「余計な一言」です。教師の説明を最後まで聞いて，しかも，個別に言ってくるのならまだしも，まだ教師の説明の途中であるのに，全員の前でそういう一言があると，教師も話の腰を折られますし，何よりクラスのほかの子たちにいい影響がありません。

子どもでも，大人でも，黙っていないで口をきいたほうがいい場面はあります。言うべきだというときに，はっきりものを言うことは大切なことです。しかし，言うべきことを言うことと，余計なことを言うことは，同じではありません。その一言で相手が不快な気分になる言葉は慎みたいものです。

…よく余計な一言を言う人は，どこかで相手を見下しているそうです。しかしその裏にはコンプレックスが隠れていることも多いそうです。自分のコンプレックスに触れてほしくないための予防なのだそうです。

…また，相手と自分を比較して，自分のほうが偉いと思っていたり，相手を見下す一言で笑いが取れると勘違いしていたりすることもあるそうです。

…むむっ，私もその場を和ませる一言を言おうとして，余計な一言を言っているかもと反省しながら書いています。

教師が授業をするときは，子どもたちと一緒に考える姿勢で臨みます。教師も答えを知らないという前提で授業を進めます。教師が「こんなことがわからないのか」「そんな考えはおかしいだろ」「バカな意見だなぁ」などと，高圧的で，子どもたちを見下した態度で授業をしたら，授業がとてもつまらないものになってしまいますし，子どもたちは発言をしなくなります。余計な一言どころではなく，禁ずべき言葉や態度です。

教師は，その子なりの考えの根拠が理解できれば，正解・不正解に関わらず，その考えを応援したり，少数意見を応援したりすることが多くあります。塾などで，授業よりも先に答えを教えてもらっている子が，違う考えをバカにするような態度を見せる場合には，指導や注意をします。授業ではどんな考えも認めます。たった一人でも，間違えている考えでも大切にします。逆に，違う考えが出されることで，授業が広がったり深まったりすることのほうが多くあるのです。

本校の授業は，子どもたちが自由に考えや意見，質問を出せる授業を目指しています。自由に思ったことが言えることは大切なことですが，相手や周りの気分を悪くさせたり，やる気をそいだりするような余計な一言とは，区別しなければいけません。

家庭でも，子どもたちの学習に，上から目線ではなく，一緒に考える立場で接していただくと，子どもたちは安心して，何がわからなくて困っているのかなど話せると思います。余計な一言はいりません。もちろん，学習だけでなく，子どもたちの困りごとや相談などにも同じように接していくことで，子どもが安心して話せることになると思います。

また，相手の言葉に対して，「でも」「だけど」といった，否定の接続語から話を始める人がいます。

・「家族みんなでスキーを始めたんだ。」

↑「“でも”お金がかかるでしょ。ケガすることもあるし。雪道の運転も怖いし…。」

・「家族みんなでスキーに行ってきたよ。」

↑「“だけど”スキー場ってこっちより寒いでしょ。寒いときに寒いところへ行くなんて…。」

こう言われるともう話はそれで終わりです。それ以上話そうとは思いませんし，何より不快な気分になります。自分の考えや体験を否定された気持ちにもなります。裏面に書いた余計な一言の一つだと思います。

櫛形地区の４つの小学校は「あやめっ子タイム」に取り組んでいます。中学校では「くっしータイム」と称して取り組んでいます。約束は３つだけです。

１つはあいさつの約束で，あとの２つは，話の聞き方の約束です。

〇うなずきながら聞く　　〇ニコニコ笑顔で聞く

話を聞くときに，余計なことを言う必要はありません。聞く人がうなずいてくれると話をしやすくなります。また，笑顔で聞いてくれているとホッとします。「そうなんだ」「なるほど」という相づちは，その話を肯定してくれます。さらに，驚いてくれたり，感心してくれたりすると，味方を得たような気持ちになります。

子どもの話を聞くには，ある意味，我慢が必要です。子どもは話の脈絡をつくって話すことは考えません。「あのね」「そしてね」と順を追って話していきます。その順も，戻ったり繰り返したりすることもあります。その話をうなずき，笑顔で聞いてやることがその子の話を共感的・肯定的に聞くことになります。

でも，忙しい毎日を過ごしている親が，我慢してゆっくり話を聞くなど無理…という声が聞こえてきそうです。ごもっともです。そんなときは，子どものためにも，自分のためにも，潔く断ることも必要です。

断るときに肝心なことは，次の３つを伝えることです。

〇今，聞いてやれない理由を伝える
〇聞いてやりたい気持ちはとってもあることを伝える
〇いつなら聞いてやれるか伝える

例えば…**「ごめん。今，＊＊＊してるから，あと１０分待ってもらえる？　そのあとで聞かせて。」**

「学校のこと？ ゆっくり聞きたいから，夕飯のときでもいい？ 急いで夕飯を作ってしまうから。そしたら，ご飯食べながら聞かせて。」

親がこういう話し方をしていると，子どももマネをします。子どもにお手伝いを頼むと

「今，テレビがいいところだから，コマーシャルのときでもいい？」

なんて言葉が返ってきます。今できない理由がわかり，やる気があって，後でやるつもりならと

「それじゃお願いね。お風呂入るまでいいから。」

などと親も穏やかな気分で過ごせます。このような聞き方や伝え方を繰り返すことで，お互いが気持ちよく過ごす経験を積み重ねることができます。「あとで聞かせて」の約束を忘れないようにお願いします。忘れないための秘訣は，「忘れていたら言って」と付け加えておくことです。

もちろん余計な一言は必要ありません。

妻から「＊月＊日は＊＊＊だから。お願いね。」と言われ，「おぅ…」と適当な返事をしていると…。
その日になって「あれ，今日って何だったっけ？」などと言ったもんなら，**「#◇%$@&▼!!!」**
世のお父さんたちへ。奥様の言うことはちゃんと聞いた方がいいですよ…。